

## 令和3年度 第1回米子市交通バリアフリー推進協議会 議事録（概要）

1 開催日時 令和3年11月2日（火曜日）午後1時15分から3時25分

2 開催場所 米子コンベンションセンター6階 第7会議室 ほか

### 3 出席者

(1) 米子市交通バリアフリー推進協議会委員

梅津委員長、加藤委員、竹本委員、山本委員、岩田委員、下垣委員、光岡委員、松下委員、内藤委員、佐伯委員、植村委員、谷口委員、田山委員、井畑委員、米増委員代理 森氏、隠樹委員代理 伊達氏、西川委員、国森委員、小笹委員、森田委員、杉本委員代理 藤原氏、曾川委員、吉岡委員、塚田委員、伊藤委員

(2) YMC A学生 6名

(3) 事務局

八幡総合政策部長、石上交通政策課課長、山根担当課長補佐、金田係長、藤原係長、大東主任

### 4 会議の次第

(1) 開会

(2) 総合政策部長挨拶

(3) 現地点検の説明

(4) 現地点検

(5) 委員長、職務代理者の選任

(6) 委員長挨拶

(7) 議事

ア 点検結果報告

イ 意見交換

(8) 閉会

### 5 協議会の概要

(1) 委員長、職務代理者の選任

全会一致の賛成により、梅津委員が委員長、天野委員が職務代理者に就任。

(2) 議事

ア 点検結果報告

事務局 A班バス乗降点検報告（米子駅、西部総合事務所前）

【米子駅】

ターミナル吊り下げ看板について、行先表示のふりがなが小さい。

【西部総合事務所前】

歩道とバスの段差が高いので、歩道のマウントアップが必要。

【バス車両】

車内前方の行先表示にふりがなが欲しい。

車内音声に合わせ、車内モニターに文字表示されると良い。

事務局 B班バス乗降点検報告（西部総合事務所前、米子駅）

【西部総合事務所前】

車イスの乗降について、スロープを設置した際の勾配が急であった。バス車両のスロープを長くするか、歩道のマウントアップが必要。

視覚障がい者の乗降について、歩道と縁石の段差により、白杖が引っかかったり、足を踏み外す恐れがある。

時刻表看板に掲示されている時刻表の文字が小さく、また、上部に設置されており、見えづらい。

歩車道の境界に小さなグレーチングがあり、水はけがよいが、バスが降りたところによく水が溜まるので対策をして欲しい。

【米子駅】

日本交通バスターミナル案内所付近の点字ブロックから4番のりばにかけて点字ブロックを設置して欲しい。

【バス車両】

車イスを取り回すためのスペースが狭く感じた。

田山委員 【西部総合事務所前】(A班)

歩道上の点字ブロックからバスの乗降口付近にかけて点字ブロックを設置して欲しい。

【バス車両】

車内放送の音量を上げて欲しい。

内藤委員 【バス車両】(A班)

難聴の方が求める筆談は、話す方が書いてくれる筆談。ペグシル等は細いので、筆談用具等の充実を図って欲しい。

植村委員 【バス車両】(A班)

知的障がい者の方もバスを多く利用している。知的障がい者にとっては、ひらがな表示かつ大きな文字で表示してあるほうが良い。

車内放送について、聞き取りやすいよう、音声の速さを「普通」と「ゆっくり」など、使い分けがあると有り難い。

車イス使用者の乗降対応するには時間がかかるため、以前は降りてしまう乗客もいた。理解を深めることが必要。教育委員会にも参加いただき、子供の頃からバリアフリーに対する教育を行って欲しい。

知的障がい者は、限られた人に対しては自分の意見を言えるが、こういう場ではあまり発言出来ない。当事者達がバス利用に関し困っていることについて、聞く場を設けて欲しい。

下垣委員 【バス車両】(A班)

聴覚障がい者はアナウンスがわからない。車内放送に合わせて、同様の文字表示を行う又は座席付近に「UDトーク」アプリのQRコードを掲載する等、音声で文字を認識できるよう工夫して欲しい。

社内表示の文字サイズを大きくして欲しい。

光岡委員 【バス車両】(A班)

車イス使用者に対するベルトについて、車イス使用者の状況や意向によ

って締め付け加減を調整するよう配慮して欲しい。

【西部総合事務所前】

歩道と縁石の段差が大きい。スロープを長くするのは現実的でないので、マウントアップして欲しい。

## イ 意見交換

岩田委員 米子駅の障がい者用駐車スペースが1台分しかなく、1台分の広さも狭い。米子駅の整備を凶っているところだと思うが、改善されるのか。

隠樹委員代理 伊達氏 米子駅北側南側とも整備を計画しているところである。設備等に不具合があれば改善について検討する。今後、団体にも相談させていただこうと考えているので、その節はよろしくお願ひしたい。

光岡委員 多目的トイレや車イスマークの駐車場が一般の方に使われ、使用できなくなっている現状がある。これらを解消するための一つとして、バリアフリー法が改正され、教育啓発特定事業が追加になっている背景がある。

学校で生徒に対し、福祉とまちづくりのことや、バリアフリーに関する授業を行うなど、教育啓発特定事業について、取り組みを進めていただきたい。

塚田委員 米子市福祉保健部としては、長寿社会課が小学校や中学校、企業に向けて認知症サポーターの養成講座などを行っている。その講座の中でも、高齢者の疑似体験などを行っているところである。また、障がい者支援課では、あいサポート研修などを事業者に向けて行っているところである。バリアフリー法の改正があったので、教育啓発特定事業についても大切だと考えている。

事務局 植村委員の意見について、様々な障がいを有する方から意見を聞く場を設けて欲しいということについては事務局の方で一度検討したい。

八幡部長 構想は10年前に策定したもの。10年で状況は変わってきている。協議会のあり方も含めて整理したい。

光岡委員 米子全体をエリアとして、交通に限らない、道路や建物や、まちづくりを視点とする、協議の場を作って欲しい。

委員長 参加した学生から、本日の感想を伺いたい。

学生 肢体障がい者役を行ったが、車イスの使用を体験し、乗降においてスロープに不安や恐怖心を感じたりだとか、バス停の時刻表の設置場所が高く感じ、また文字が小さく見づらかった。米子駅の時刻表設置場所はブロックで固定してあり、車イスを使用する上で障壁となった。現地点検等を通じて、まちなかで生活する上での障壁を実感することが出来た。どうサポートすれば良いか、どんな配慮が必要なのか、学生のうちから出来ることは何なのか考えて、これからの学びにつなげたいと思う。

学生 視覚障がい者役を行ったが、公共交通機関を利用する機会もなかったもので、視覚障がい者の体験を通して、抱える障壁を感じる事が出来、勉強になった。2ヶ所のバス停での体験だったが、自分の住んでる地域等でも、今回の視点で問題を抽出していきたいと思う。

- 下垣委員 車イスや視覚障がいの視点を経験してもらえて嬉しく思う。今後は聴覚障がい者の体験等も行って欲しい。
- 谷口委員 ロービジョン者もそれぞれで視野が異なるため、体験して欲しい。道具は鳥取県ライトハウスが所有している。
- 植村委員 精神障がい者、知的障がい者についても、交通バリアフリーを進めるうえでしっかりと考えて欲しい。
- 委員 長 今後事務局と共に検討していきたいと思う。
- 岩田委員 だんだんバスについて、逆方向の運行は検討しないのか。
- 石上課長 逆方向は困難な点が多いため行わないが、今年度現行ルートに加えて、新ルートの実証運行を検討している。
- 事務局 前回協議会において、委員の皆様から頂戴した意見に対する、事務局から2点ご説明する。
- 1点目は盲ろう者の委員追加について。鳥取県盲ろう者支援センターに確認したところ、米子市内に全盲ろうの方がおられないため、協議会の参加は見送らせていただきたい。
- 2点目は現地点検について。今年度の点検で整備済み路線等について一通り点検が終了した。今後の点検についてはあり方も含めて検討していきたい。
- 八幡部長 様々な意見を頂いて、なるほどと思う事ばかりだった。実施するには様々な壁があるが、皆様と一緒に少しずつでも対応してまいりたいと考えているので、今後ともご理解とご協力をお願いしたい。
- 委員 長 米子市交通バリアフリー推進協議会は、様々な障がいをお持ちの方、健常者、行政、事業者が一同に会して協議をし、議論を深める貴重な協議会である。各団体の意見を持ち寄り、今後も住みよい社会を作るために努力をしていきたいと思う。